

# パキスタン国ムザファラバード復旧・復興計画調査, JICA, 2007年3月

## 01 背景・目的

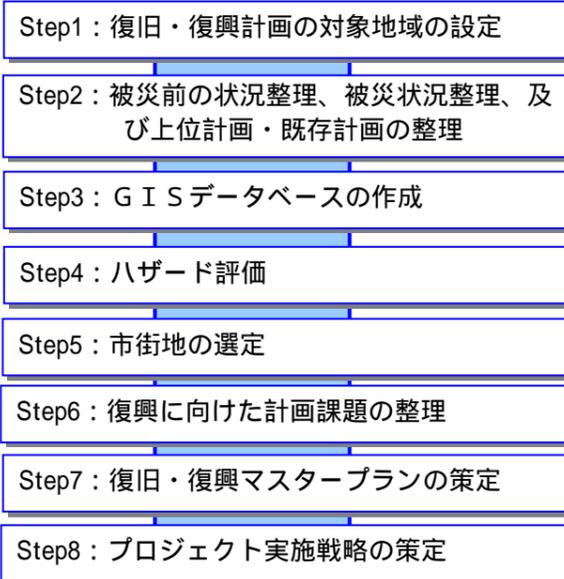
平成23年3月11日に発生した「東日本大災害」は戦後、最大の災害となりました。被災された方々にお見舞いを申し上げますと共に、一刻も早い復旧と復興を節に願うものであります。

弊社では、被災された地域住民の方々、関係者の方々に復興の方向性を早急にご提示することが、建設コンサルタントとしての使命と考え、海外での復旧・復興計画の実績を基に、地震からの復興計画策定の事例をパンフレットとして取りまとめました。

今後、早期に安全で安心して暮らせる魅力あるまちへと再生していくことを願ってやみません。

## 02 復旧・復興に向けて

手順



住民ワークショップ等

**Step1 復旧・復興計画の対象地域の設定**

行政広域圏程度の広さを目安に、市街地の放棄、移転などを視野に入れ、復旧・復興計画の対象地域を設定します。

**Step2 被災前の状況整理 等**

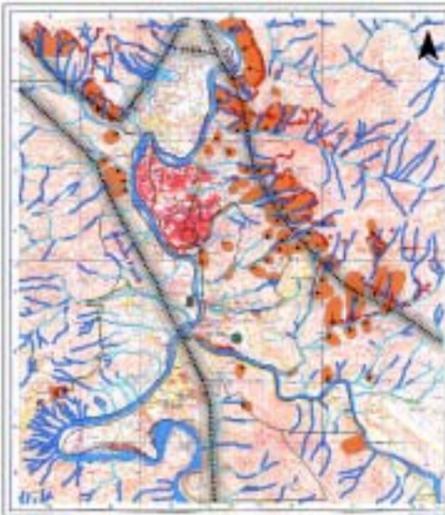
被災前の土地利用、学校・病院などの公共施設配置、道路・公共交通機関などの生活に係わる施設について整理します。また、被災状況について位置、被災リストを作成します。さらに、上位・関連計画、既存計画、実施中の事業などを整理します。

**Step3 GISデータベースの作成**

被災前施設、被災状況、上位・関連計画や次章以降の検討結果などの位置データについてGISデータベースとして作成します。

**Step4 ハザード評価**

東日本大災害では、津波による大きな災害が発生しました。現地調査等を通して津波の規模・影響範囲等を確認し、危険性の高い地域を「ハザードマップ」として作成します。



ハザードマップの例

**Step5 市街地の選定**

ハザード位置やこれまでの市街化の状況を踏まえた上で、次に示すように市街化の考え方を分類します。

類型 / 災害の危険性	市街化(都市化)の程度	考えられる都市機能
市街化地域	【低い】市街化が最も進んでいる地域	総合病院・高等教育機関・大規模公園・主要商業センター等の都市のコア機能、高密度住宅
市街化可能地域	【低い】市街化が進んでいる地域	住宅・近隣公園・小売店・小規模工場、医療施設・学校等の都市のサブ施設、中密度住宅
市街化抑制地域	【高い】市街地の形成に適さない地域	農地、防災管理の観点から指定される保全地域、等

**Step6 復興に向けた計画課題の整理**

復興に向けた計画課題を以下の視点などから整理します。

「自助、共助、公助」による防災原則の適用

自然災害に強い都市構造の確立

3つのフェーズに分けた復旧・復興プロセス

- Ph-1 復旧期: 避難状態 仮設市街地形成
- Ph-2 復興始動期: 仮設市街地 恒久復興開始
- Ph-3 本格復興期: 恒久復興完了 住民移転を最小限に抑える

災害後の時間経過

- フェーズ1 (復旧期): 避難
- フェーズ2 (復興始動期): 仮設市街地
- フェーズ3 (本格復興期): 将来的な市街地における復旧

建物被害: 地震 (大被害) → 中程度被害 → 小被害 → 被害なし

居住: 住居に引続き居住

市街地における各戸単位での復旧・復興

**Step7 復旧・復興マスタープランの策定**

復旧・復興マスタープランの策定は、被災状況を考慮しつつ策定します。

全体構成の視点等

- 復旧・復興計画の目的: 基本方針、計画の範囲・規模、計画の目標等
- 土地利用の方針: 主要用途の配置方針、市街地密度構成の方針等
- 交通体系: 下水道及び河川の整備方針
- その他の公共施設等の整備方針
- 市街地の開発及び再開の方針
- 自然環境の保全及び公共空地系統の整備方針 等

凡例: 海 山間部 市街地 海岸線 河川 護岸

**Step8 プロジェクト実施戦略の策定**

復旧・復興マスタープランを具現化すべきプロジェクト実践戦略を以下の戦略に基づき策定します。

戦略1) 市街地の復興に向けた都市計画      戦略3) 地域での生活を取り戻す暮らしの復興

戦略2) 適切な住宅計画                              戦略4) 自然災害ハザードとリスクの低減

**住民参加(ワークショップ・セミナー)**

実効性と住民の満足度の高い、「復旧・復興マスタープラン」とするために、必要に応じて地域住民の方々の意見交換を行いながら、計画の策定を目指します。

(出典: JICA パキスタン国ムザファラバード復旧・復興計画調査報告書、2007年1月)